

ワクチン予約 なぜ「早い者勝ち」 を読んで

コロナ禍、変異ウイルスが蔓延しています。特に地方は収容ベット数が少なく医療現場は大変な状態と聞きます。その中でコロナワクチン接種予約申し込みが、各自治体で始まりしました。下関市以外の県内では接種が始まったそうです。

その中で、今日（5月20日）の朝日新聞朝刊「声」に「ワクチン予約 なぜ『早い者勝ち』」を読んで、我が家でも起きている事だと共鳴しました。

埼玉県の主婦83歳

ワクチン予約 なぜ「早い者勝ち」

コロナワクチン接種の予約申し込みに、ほとんど疲れました。

まず初日の10日、かかりつけ医院に申し込むため、一日中電話にしがみつきましたが、まったくつながりません。そこで翌日、医院に直接行ったら、「すでに申し込みは締め切ったので、コールセンターに直接申し込むように」とのこと。

やっとコールセンターの電話がつながったと思ったら、「5月分は終わったので、6月分に申し込むように」と言われる始末。さらに6月分の申込日は未定だから、時々連絡して確認してほしいとの指示でした。仕方がないので電話をかけつづけると、15日午後1時から5月分の残りとは6月の2週間分の予約を受け付けるということがわかりました。しかし、4時間かかって、なんとかつながった電話からは「すでに予約分はいっぱい」と無情の言葉が・・・。

この対応、何なのでしょう。なぜ「早い者勝ち」ですか。年齢や生年月日、姓名で区分けするなり、抽選にするなり、できないのですか。電話しか手段がなく、インターネットもできない一人暮らしの老人にとっては、つくづく住みにくい世の中になってしまいました。

地方によっては、その地域に合った方法で行っているの、混乱も起きずスムーズに行っているところもあると聞きます。わが夫は毎週月曜日に朝から夕方まで、電話をかけているそうですが通じず、コールセンターに通じたときは「終わりました。」との返答に感情的になったと申ししておりました。未だ予約が取れません。私はかかりつけ医院で予約をお願いしました。

行政のすることは、市民の為、現場中心の為などは考えられず、机上的・マニュアル的・してあげると言うことが多々あります。公務員は「市民の公僕」であることを理解して仕事をしている人がどれほどいるでしょう。

子ども食堂の連絡会だったと思いますが、課長補佐の挨拶には驚きました。

「貧困は悪いことではありません。市にはお金がありません。助成金も出せません。皆さんの思いでやってください。」と上から目線でした。

国も県も市も、「国民のことを思って仕事をしていますか？」高い報酬を貰ってそれに答えていますか？あなたたちの報酬は国民の血の出るような思いをして得ている税金です。

私たち市民は、もっと物申し、怒らなくてはいけないと思います。
お互いに物申す市民になりましょう。その為に現状を知り、知識をつけましょう。市民が公平公正に扱われる社会を目指そうではありませんか。

